

## 共同研究室

収

美の美社 昭和五三年三月

「事業経営の基盤は最高道徳である」

《モラロジー研究》第六号

上野俊樹

「見田石介著作集補巻・『芸術論』解題」

「見田石介著作集」補巻所収

大月書店 昭和五二年四月

岡崎栄松

「資本論を学ぶ」全五冊(佐藤金三郎・降旗節雄・山口

重克・三氏との共同編集)

有斐閣 昭和五二年六月〜十二月

奥地 正

「日本経済と林業・山村問題」(共著)

東京大学出版会 昭和五三年三月

小野一郎

「現代社会主義の経済体制と民主主義―ソ連における効

率・分権・参加の問題をめぐって―」

《現代と思想》第二九号

▼本年度(昭和五二年四月〜五三年三月)会員が本誌以外に発表した業績はつぎのごとくである。

足立政男

「老舗の家訓」

中外日報社《人生ジャーナル》 昭和五二年四月〜

十二月

「小売業の経営方向について」

田辺経営《経営速報》昭和五二年五月〜五三年三月

「家憲は生きている」

《週刊ダイヤモンド》第六五巻第二十号

「安定経済時代における経営のあり方」

モラロジー研究所《経営と道徳》第九巻第二号

「老舗の経営とモラロジーの経営」

モラロジー研究所 昭和五三年三月

「(株)川島織物家略史」

『京の伝統と紋様シリーズ 川島織物』第一巻所

大藪輝雄

「農業の発展過程」

同上書、第四分冊所収

有斐閣 昭和五二年八月

塩沢君夫・後藤 靖編『日本経済史』所収

小檜山政克

有斐閣 昭和五二年十二月

「景気循環の変容としてのスタグフレーション」

角田修一

《経済》 昭和五三年一月号

「経済原論への手引き」

後藤 靖

《経済》 昭和五二年五月特大号

「近代天皇制研究の動向」

「書評・林 直道著『恐慌の基礎理論』」

『地方史研究総覧』所収

《経済科学通信》 第二十号

柏書房 昭和五三年三月

川本和良

『ドイツ社会史の諸問題』（共訳）

「本源的蓄積期の社会」

未来社 昭和五三年二月

塩沢君夫・後藤 靖編『日本経済史』所収

甲賀光秀

「相対的過剰人口または産業予備軍―失業率増大と利潤率低下の両傾向法則の関連―」

坂本和一

佐藤金三郎・岡崎栄松他編『資本論を学ぶ』第二分

「生産の社会化の諸段階―『資本論』第四篇第一一―一三章における論理と歴史―」

冊所収

佐藤金三郎・岡崎栄松他編『資本論を学ぶ』第二分

冊所収

冊所収

有斐閣 昭和五二年七月

冊所収

「剰余価値率と利潤率」

有斐閣 昭和五二年七月

共同研究室

一五七（一〇三二）

「戦後工業の発展」

塩沢君夫・後藤 靖編『日本経済史』所収

有斐閣 昭和五二年十二月

塩田庄兵衛

「憲法と民主主義の発展をめざして」

憲法会議・日本科学者会議共同編集「憲法を考へる」所収

水曜社 昭和五二年四月

「戦後日本の労働争議」改裝版(共同編集)

御茶の水書房 昭和五二年十一月

「十九世紀から二十世紀へ―兆民と秋水―」

木下順二・江藤文夫編『中江兆民の世界―三酔人

経綸問答』を読む』所収

筑摩書房 昭和五二年十二月

清水貞俊

「EECの農業政策と農業問題の現状」

「ECの地域政策と地域経済問題」

片山謙二編著『ECの発展と欧州統合』所収

日本評論社 昭和五二年九月

「EECにおける農産物価格政策」

《商品先物市場》第二卷第二号

「資料・日本におけるEC研究の現状」

《世界経済評論》第二一巻第八号

戸木田嘉久

「現代社会政策」(吉村朔夫氏と共同編集)

有斐閣 昭和五二年五月

「堀江正規著作集第四卷・解説」

「堀江正規著作集」第四卷所収

大月書店 昭和五二年七月

「わが国賃金問題との共通点・相違点―フランス労働

総同盟、現代フランスにおける賃金問題」に寄せ

て―

《賃金と社会保障》第七三一号

「現代日本の労働者状態と社会保障要求―賃金の国際比

較をつうじて―」

角田 豊・真田 是編『労働者のくらしと社会保

障』所収

法律文化社 昭和五二年十二月

浜崎正規

『現代と社会思想―修羅の妄執―』

玄文社 昭和五二年六月

三好正巳

『国家独占資本主義期の社会』

塩沢君夫・後藤 靖編『日本経済史』所収

有斐閣 昭和五二年十二月